

職員による自己評価

保護者による評価

A 「業務改善」について

- ・保護者アンケートやセンターへのご要望書により、職員全員で内容の確認と改善点の話し合いを行っている。また、ワークライフバランスの推進もあり、事務的な業務の効率化を図りつつ、サービスの向上に努める必要がある。

B 「適切な支援の提供」について

- ・個々のお子さんの特性や発達段階の理解に努め、お子さんが楽しく達成感が持てるプログラムを充実させ、バリエーションの幅を広げていく。

C 「関係機関との連携」について

- ・併用している園の先生、事業所に通園の療育に参加していただく「療育参観」の機会を引き続き実施していく。また、園訪問実施によりさらに連携を深める。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・面談を通して、限られた時間の中で保護者と支援の方法などについて、より丁寧な説明が必要である。また日々の親子通園の中でも優先順位をつけて説明していくことの必要性を感じている

E 「非常時等の対応」について

- ・保護者も参加する毎月の地震や火災を想定した訓練を実施しているが、あらゆる火元を想定した訓練、ヘルプ職員の動きをマニュアル化しなければならない。

A 「適切な支援の提供」について

- ・「個別支援計画書に沿った支援が行えているか」の項目について、ほぼ全員が「はい」と回答しており高い評価を得られている。「活動プログラムが固定化しない工夫がされているか」について、昨年度同様にほとんどの方が「はい」の回答であった。

B 「保護者への説明等」について

- ・今年度もコロナ禍のため、「保護者どうしの連携が少なく残念」等のご意見が複数あった。一方で、分散し保護者の人数が少ないことで、担任と話す機会を持てたというご意見もあった。

C 「非常時の対応」について

- ・昨年度よりコロナ禍においても、避難訓練の目的の伝達や保護者も一緒に参加する場面を増やしたことで、「はい」の回答が増えた。

D 「満足度」について

- ・ほとんどの方が満足というご意見をいただいた。特に、お子さん自身が「通園に行くことを楽しみにしている」との記載も多かった。

事業所内での分析

○昨年度に比べ、コロナ禍の感染対策を行いながら、分散親子など登園方法を確立し、療育をできるだけ止めないような運営形態を行ってきた。行事も対策を前提とした新しい形で中止することなく行うことができた。アンケート結果でも、登園そのものに関してのご意見よりは、新しい形の中でのご要望もあり、短縮や分散の新しい形の中で目的や意味を再確認し共有していくことを継続的にいき、保護者のニーズを受け止め療育を進めることができた。

○プログラムの充実について、バリエーションのあるプログラムを職員間で話し合いクラスを超えて共有してきましたが、お子さんの状態に合わせて回数や時期を再確認していくことを確認すること。また、発達段階に合わせた環境設定ができているとのご意見をいただきましたが、引き続き保護者の方と課題の共有ができるように、療育の目的や今後の見通しも含め確認していくことが必要と思われる。

○昨年度のコロナ禍より動画配信やZOOMでの講座を増やしてきた。感染状況により登園できない方、また自粛をされる方、療養中の方がご家庭で長時間安定して過ごすきっかけになるよう、今後もバリエーションや配信の形を検討していく。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、障害特性について理解を深めながら、特性に合った関わり方を実践できている。また、保護者の集団化することで保護者同士のつながりや仲間づくりの場を担っている。
- お子さん、保護者の方それぞれに合わせて集団化されている中でも、担任以外のスタッフと情報を常に共有することができ、タイムリーに個別に対応していける。
- 福祉と医療の一体運営しているため、担任だけでなく、様々な職種によるチームアプローチによる一貫した療育を実施している。
- お子さんに対する支援は構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組みをとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように集団の中で個別の環境設定や関わりをしている。
- 防災対策に力を入れており、1階の地域ケアプラザと合同で訓練を実施する等、万一の災害発生に備えている。通園では月1回保護者も含め避難訓練を行っている。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズが多様化していることから、障害の重いお子さんがいる家庭や地域生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援について充実を図ることが必要となる。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。「これからの地域療育センターのあり方について」の具現化とともに、「地域療育センター組織の見直しについて」の検討が急務である。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、改善点のご指摘いただいた課題もありましたので、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思います。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行っていきます。

事業所名 横浜市北部地域療育センター

担当者 園長 平安寺晴美

職員による自己評価

- A 「業務改善」について
- ・医療型児童発達支援の3クラスは、担任間の連携、診療職種との適切な連携をより密に行い、プログラムのバリエーションを広げる為情報共有も必要である。
- B 「適切な支援の提供」について
- ・子どもの状態像や障害種別が多岐にわたるため、お子さんの状態像や課題を考慮しながら他職種との連携を密に行い支援を行っている。
- C 「関係機関との連携」について
- ・併用している園や学校、他事業所の先生に通園の療育に参加していただく「療育参観」の機会が有効であり引き続き実施していきたい。また、園訪問実施によりさらに連携を深めていく。
- D 「保護者への説明責任等」について
- ・保護者が抱える困り事等についても適宜相談に応じ、ご家族全員が安定して生活できる支援が行えるよう、通園職員内での方向性を統一していく
- E 「非常時等の対応」について
- ・保護者も参加する地震や火災を想定した訓練を毎月実施している。肢体系のお子さんの避難経路や避難方法について、常に適切な判断が求められるため、日頃から意識を高めておく必要がある。

保護者による評価

- A 「適切な支援の提供」について
- ・「個別支援計画書に沿った支援が行えているか」「プログラムが工夫されているか」の項目について、ほぼ全員が「はい」と回答しており高い評価を得られている。
- B 「保護者への説明等」について
- ・ほとんどの方が、適切な説明が出来ているに「はい」としている。今年度は親の会と通園と連携して保護者同士の活動支援や茶話会を実施することができた。
- C 「非常時の対応」について
- ほとんどの方が「災害のインフォメーション説明や非常災害に備えた訓練が行えているか」について「はい」の回答。
- D 「満足度」について
- ・「センターの支援に満足しているか」に全員が「はい」と回答。

事業所内での分析

- 今回のアンケートではご指摘や改善等のご記載がなく、高い評価をいただきました。基礎疾患を持ったお子さんも多く、感染対策を明確にし、保護者と共有できる形にすること、またお子さんの状態に合わせて適切な助言を意識して行うことで、長期にわたり体調を崩すお子さんもなく、コロナ禍でも安心して通え、お子さんを預けることができる環境を整えることができた。
- 要医療重心児の療育が、安全に遊びの経験が出来るよう、看護師を含む他職種と連携して、環境や支援内容の充実を図っていく必要があると考えているが、保護者の希望や見通しを尊重しながら、通園だけでなく外来の時からセンターとしての考えや方向性を職員間で一致させ、保護者に一貫して伝えていくことの必要性を感じている。
- 保護者とのコミュニケーションを引き続き積極的に図り、必要な情報提供や説明等を丁寧に行っていく。また、お子さんの状態が多岐にわたる為、お子さんの状態像を十分に把握し、姿勢・食形態などの関わりの個別化を安全に行える構造を引き続き確立していく必要がある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、その場でお子さんの様子を見ながら、障害特性について理解を深めながら、特性に合った関わり方が実践できる。
- 福祉と医療の一体運営をしているため、担任だけでなく、様々な職種によるチームアプローチを行い、チーム間による一貫した療育を実施できる。
- お子さんに対する支援は、お子さんの障害特性または健康状態に合わせて、個々のペースや必要な構造化された環境設定の中で、お子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように働きかけている。
- 防災対策に力を入れており、1階の地域ケアプラザと合同で訓練を実施する等、万一の災害発生に備えている。また、肢体不自由児のお子さんに合わせた安全な避難の形を個別に検討している。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズが多様化していることから、個々の家庭状況に合わせた頻度や療育方針を設定し、家庭や地域生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援について充実を図ることが必要となる。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。「これからの地域療育センターのあり方について」の具現化とともに、「地域療育センター組織の見直しについて」の検討が急務である。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、改善点のご指摘いただいた課題もありましたので、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思っております。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行ってまいります。

事業所名 横浜市北部地域療育センター
担当者 園長 平安寺晴美

職員による自己評価

保護者による評価

A 「業務改善」について

- ・保護者向けアンケートを踏まえ、運営会議にてサービスの改善点の確認、検討を行っている。また、事業所は療育センター本体と離れた場所にあるため、センター本体と適切に情報を共有する必要がある。本体の多職種とタイムリーに連携を図り、サービスの質的な向上を目指している。

B 「適切な支援の提供」について

- ・利用児に対し、適切な課題設定及び支援を行うため担任間で毎日振り返りのミーティングをとっている。また、必要時間係職種ともカンファレンスを行い、お子さんの支援方針を確認している。

C 「関係機関との連携」について

- ・児が併用している園への訪問を必要時行い、お子さんについての共有や支援の助言を行っている。昨年度の引き続き今年度も新型コロナの感染拡大防止を考え、可能であれば電話相談にしながら、園の先生と情報を共有して連携を図る工夫を行った。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・コロナ対策を行いながら、限られた時間内で保護者懇談や個別に相談する時間を設け、お子さんの状況等を確認、共有し、障害特性の理解を深めるよう努めた。

E 「非常時等の対応」について

- ・非常時の対応については、年度初めの説明会にて「ご利用のしおり」をもとに説明を行っている。また今年度は年に2回、職員と利用者として避難訓練を実施した。

A 「適切な支援の提供」について

- ・個別支援計画書に沿った支援が行われているか、プログラムが固定化しないよう工夫されているか、の項目について多くの方が「はい」と回答しており高い評価が得られた。

B 「保護者への説明等」について

- ・「支援内容説明されているか」について、ほぼ全員が「はい」の回答であり、必要な情報提供の評価が得られている。一方、今年度もコロナの影響で、「思ったより保護者間の交流の機会が少なく、残念に感じた」というご意見は多数あった。
- ・「お子さんや保護者との意思疎通や情報伝達配慮されているか」「定期的にクラスのお便り発信できているか」については、ほぼ全員「はい」の回答が得られた。

C 「非常時の対応」について

- 「災害・緊急時のインフォメーションについて、保護者に周知・説明されているか」「非常災害に備えた訓練が行えているか」については、ほとんどの方が「はい」の回答。

D 「満足度」について

- ・「毎週子どもが通所をととても楽しみにしていた」「とても感謝しています」というご意見いただき、ほとんどの方が満足していますか？に「はい」の回答であった。

事業所内での分析

- お子さんが毎回の通所を楽しみにできるように、プログラムの工夫を行っている。
- 個別支援計画書については、お子さんと保護者のニーズや課題を分析した上で作成が出来ている。
- お子さんの状況を保護者と職員とで伝え合い、発達の状況、課題について共通理解が出来ている。週1日の頻度であり、就労している保護者もいるので、療育時間内でのやりとりだけでなく、保護者の可能な時間で、電話でのやりとりも行っている。
- 事業所は、ビルのテナント施設を利用しているが、窓がなく、設備上、室温調整や喚起が難しい。今年度も、新型コロナの対策として、各部屋にある排煙口を開けて対応。窓がない療育室に関してはドアを常時解放し、サーキュレーターを対面に置き、できる限りの対策を行いながら進めた。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、障害特性について理解を深めながら、特性に合った関わり方を実践できている。
- 福祉と医療の一体運営しているため、担任だけでなく、様々な職種によるチームアプローチによる一貫した療育を実施している。
- お子さんに対する支援は構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように働きかけている。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズが多様化していることから、家庭や地域生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援について充実を図ることが必要となる。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。「これからの地域療育センターのあり方について」の具現化とともに、「地域療育センター組織の見直しについて」の検討が急務である。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりました。今後も利用者の皆様に満足していただけるよう、改善すべき点は改善し、サービスの向上に努めていきたいと思っております。今後も保護者の皆様から、より一層信頼される事業展開を行ってまいります。

事業所名 横浜市北部地域療育センター

担当者 園長 君島美和